

第4回研究会

平成18年7月25日(火)午後2時
消防庁舎大会議室

主な内容

江南市戦略計画基本構想に盛り込む協働の考え方について
これからの協働研究会について

江南市戦略計画基本構想に盛り込む協働の考え方について

研究会の考え方として整理したもの [市民協働研究会【協働の理念・目的など】](#)

(委員の主な意見)

構想に盛り込むものは江南市固有のものを作りたい。

「次世代の育成」は目的の中に具体的に表現しておきたい。例えば「世代間の交流による次世代の育成」。

定義の共有もできていないと条例も作れない。具体的なイメージ作りが必要である。そのためにどうしたら良いかを議論しなければならない。条例などを検討しかけると言葉は抽象的になっていく。そうなっても皆がイメージできるようにしていく必要がある。

研究会が目指す最終的な目標をどう考えるか

前回の研究会でも、今年度は、協働でまちづくりを行っていくための「ルール」「指針」をまとめることであるという目標の確認を行いました。

最終的な形として協働に関する条例、自治基本条例などの条例案までを目指したいという意見がある中、「できれば早く成果(条例案)を出したい」という意見、「まずは、市民の間に協働の必要性や協働の実践を浸透させていく手段・仕組みをつくる必要がある」といった意見が出されました。

いろいろな意見が出された中、協働のルール・指針づくりが必要なのは皆が理解できたと思います。そこから条例に発展させていけばよいというのが大筋の意見であったと思います。

(関連しての主な意見)

協働のルール、指針は市民が使えるようなものにしていくことが重要である。

協働を広めていくための手段を考えることが重要。

市民が主役と言っても、どうやったら主役になれるのか。市民は、まだまだ行政と向き合うと苦情をいうことが多い。どうやったら本当に協働していけるのか、原則

にもあるようにまずは相互理解が必要である。何ができるのかははっきりとさせていく中で、結果としてそれが条例であるのならそれでもよい。

ボランティアはいっぱいあるが、それをコーディネートしていく仕組みがない。それが市民活動支援センターかもしれない。

協働が進まないとどうなるのかということに対する共通認識を持たなければならない。

協働のルール・指針を作って終わりではなく、NPO、ボランティアにこれを使ってもらってチェックして、見直す。これを盛り込んで条例としていくという進み方も考えられる。時間をかけてもよいので具体的に浸透させていかなければならない。

活動費がないなどボランティア団体が困っていることはいろいろある。どうやって活動していけばよいのか、皆に理解してもらえるのか、このようなところを議論していけば、条例の中身は自然に出てくる。